

ベトナム人民を支援し  
アメリカ侵略者をうちやぶろう

第 一 集

---

外 文 出 版 社

北 京

ベトナム人民を支援し  
アメリカ侵略者をうちやぶろう  
第一集

外文出版社

北京

## 出版者のことば

アメリカ帝国主義は、南ベトナム侵略に拍車をかけると同時に、一歩一歩と戦火をベトナム北部へ拡大しています。

一九六五年二月いらい、中華人民共和国政府は再三にわたって声明を発表し、また党、政府および人民団体の指導者も重要談話を発表して、アメリカ帝国主義のベトナム侵略戦争拡大をげしく糾弾するとともに、ベトナム人民の抗米救国の闘争をだんこ支持しています。

ここに、以上の文献と『人民日報』に掲載されたこれに関連のある社説および文章をそれぞれパンフにまとめて出版することにしました。

本集におさめられているものは、一九六五年四月五日までに発表された文献と文章です。

## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 中華人民共和国政府の声明（一九六五年二月九日）        | 5  |
| 中華人民共和国政府の声明（一九六五年二月十三日）       | 9  |
| 中華人民共和国政府の声明（一九六五年三月四日）        | 14 |
| 中華人民共和国政府の声明（一九六五年三月十二日）       | 21 |
| チラナ大衆集会での周恩來の演説                | 28 |
| アメリカ帝国主義の武力侵略に反対するベトナム人民を支援する  |    |
| 中華人民共和国首都各界人民大会での彭真、劉寧一の演説     | 34 |
| ベトナム民主共和国スアン・トイ外相にあてた陳毅外交部長の返電 | 45 |
| アメリカ侵略者は懲罰されねばならない             | 49 |

ジョーンソン政府の強盜の言いぐさ……………54

(一九六五年二月十日付『人民日報』社説)

進退きわまるジョーンソン政府……………62

(一九六五年二月十九日付『人民日報』社説)

ジョーンソン政府の戦争ゆすり……………69

(一九六五年三月一日付『人民日報』社説)

全世界人民はいつせいに立ちあがり、

南ベトナム人民を支援し、アメリカ侵略者をうち破ろう……………75

(一九六五年三月二十五日付『人民日報』社説)

ジョーンソン政府の滔天の罪行を糾弾する……………81

(一九六五年三月二十五日付『人民日報』社説)

アメリカの侵略に立ちむかうベトナム人民を支援するためにたたかう……………86

(一九六五年三月二十九日付『人民日報』社説)

偉大な勝利、必勝の決意……………95

(一九六五年四月五日付『人民日報』社説)

# 中華人民共和國政府の声明

(一九六五年二月九日)

アメリカ帝国主義は、またもや侵略の魔手を中国の兄弟的隣国であるベトナム民主共和国にまで伸ばした。二月七日と八日、アメリカ空軍はつづげざまにベトナム民主共和国のクアンビン省ドンホイ市、クアンビン省のその他の地方およびビンリン地区の平和な町と村を爆撃し、掃射した。勇敢なベトナム北部人民は断固たる反撃をおこない、侵入してきた多くの米機を撃墜破した。二月八日、ベトナム民主共和国政府は声明を発表して、平和を愛し、侵略にたちむかうその正義の立場をおごそかに宣言した。中国政府はこの立場をだんこ支持するものである。

中華人民共和國政府と六億五千万の中国人民は、南ベトナム戦争を拡大する米ジョンソン政府の強盗行為をきびしく非難する。

中華人民共和國政府と六億五千万の中国人民は、兄弟のベトナム人民がアメリカ侵略者に反撃を加えておさめた輝かしい戦果に心から歓呼の声をあげる。

アメリカのベトナム民主共和国にたいする今回の空襲は、一九六四年八月のバック・ボー湾事件について、またも計画的に南ベトナム戦争を拡大しようとするむきだしの戦争挑発行為である。アメリカのいいがかりはデタラメきわるものである。二月七日、ベトナム南部の人民武装部隊はプレイク地区のアメリカ侵略者を奇襲した。アメリカの国防長官がみずから認めたところによると、米機二〇機が破壊・破損をうけ、アメリカ侵略軍七名が射殺され、一〇九名が負傷した。アメリカ侵略者の頭目は、「これはこまったことだ、まったくこまったことだ」といっている。だが、全世界人民は、これはほんとうにすばらしい、とてもすばらしいといっている。アメリカ侵略者が遠くからはるばるとベトナム南部までおしかけてきて、毎日なんら罪のないベトナム南部の民衆を虐殺しているのに、どうしてベトナム南部の人民は侵略者におかえしすることができないのか。アメリカ帝国主義はベトナム北部空襲という手段でベトナム南部の人民をおどし、アメリカ侵略者に逆らわないようにさせようとしているが、それは永遠にできない相談である。

アメリカ政府は、南ベトナム戦争の拡大を考えていないとか、今回の行動は一種の報復行動にすぎないとか、戦争の拡大、不拡大はすべてベトナム民主共和国の出方次第だとかいっている。これは徹頭徹尾のつくり話である。事実、アメリカがすでに南ベトナム戦争拡大の道にふみこ

んでいるということである。現在の問題は、アメリカがこの道を歩みつづけてゆこうとするのか、どうかということである。これは他のいかなる人によっても決められないものであつて、アメリカ政府自身によつてのみ決められるものである。アメリカがおおつびらに一九五四年のジュネーブ協定をふみにじり、武力で侵略したベトナム南部の軍事基地と航空母艦から、さらに一歩すすんでベトナム民主共和国の領土を侵犯した以上、ベトナム民主共和国もアメリカの侵略に反撃を加える権利を獲得し、ジュネーブ協定を擁護するすべての国もベトナム民主共和国を支援し侵略者にたちむかう権利を獲得したのである。この権利をどのように行使するかはわれわれ自身のことである。現在、情勢は発展しつつある。しかし、つぎのことだけは、はつきりといえる。もしアメリカがあくまで南ベトナム侵略戦争の拡大をはかるなら、その結果、かれらは、かれらを包囲攻撃しているインドシナ各国人民、東南アジア各国人民、極東各国人民の大海の中に自分自身をおくだけであり、その失敗はいつそう早くなり、いつそうみじめになるだけである。

ベトナム民主共和国は社会主義陣営の一員である。すべての社会主義国には、實際行動をとつてベトナム民主共和国を支援するという、さけることのできない国際的義務がある。

中国は一九五四年のジュネーブ協定の調印国であり、中国とベトナムは切っても切れないあいだがらの隣国であり、中国人民とベトナム人民は血肉をわけた兄弟である。アメリカのベトナム



民主共和国への侵犯はすなわち中国にたいする侵犯である。六億五千万の中国人民は絶対にこれを黙視することができないし、またすでにその準備をととのえている。中華人民共和国政府は、平和を愛する全世界のすべての国と人民が団結して、あらゆる可能な行動をとり、ベトナム人民の正義のたたかいを支援するよう呼びかける。

アメリカ侵略者はかならず失敗する！

ベトナム人民はかならず勝利する！

## 中華人民共和国政府の声明

(一九六五年二月十三日)

二月十一日、アメリカはまたも一五〇余機をくりだして、ベトナム民主共和国のビンリン、ドンホイ、ゲアン地区に気がいじみた掃射と爆撃をくわえ、ベトナム人民軍のために、そのうちの九機を撃墜され、多数を撃破された。これは、アメリカのジョンソン政府が一週間のうちにベトナム民主共和国にたいしておこなった空襲の第三回目である。いま、アメリカ政府は南ベトナム侵略の戦火を一步一步ベトナム北部にひろげようとしている。戦争の危険がインドシナと東南アジアの各国人民をおびやかしている。

二月十一日、ベトナム民主共和国政府は声明を発表し、アメリカ帝国主義の戦争行為をきびしく非難するとともに、ベトナム人民はいつそう警戒心を強め、つねに戦闘準備をととのえて、ベトナム民主共和国を侵犯するアメリカ侵略者とその手先のあらゆる行動をだんこ粉碎するよう呼びかけた。中華人民共和国政府と六億五千万の中国人民はベトナム人民のおさめた新たな輝かし

い勝利を熱烈に祝うとともに、ベトナム民主共和国の厳正な立場をあくまで、無条件に支持するものである。

アメリカのベトナム民主共和国にたいする戦争挑発の口実はまったくデタラメそのものである。過去もそうであつたが、現在はなおさらそうである。

全世界がよく知っているとおり、一九六四年八月五日、アメリカがベトナム民主共和国を空襲したときの口実は根も葉もないものであつた。こんどの数回にわたる空襲についても、アメリカ侵略者は、ベトナム南部でたたかれたから北部に「報復」をくわえるのだといっている。これは、なおさら黒を白といいくるめる強盗の論理である。南ベトナムでの戦争はアメリカがひきおこしたものである。フランスが一九五四年のジュネーブ協定にもとづいて、その武装力を撤退させると、そのあとを追つてアメリカの侵略者がのりこんできた。アメリカ帝国主義とその南ベトナムのかいらいはありとあらゆるあくどい手口をつかつてベトナム南部の人民を抑圧している。これがベトナム南部の人民を奮起させ、反抗に立ちあがらせたのは当然のことである。特殊戦争はいまの南ベトナム駐在アメリカ大使テラー將軍が発明し、かれ自身の手によつて南ベトナムで強力におしすすめられているものである。特殊戦争とはなにか。はつきりいえば、それは近代兵器をつかつて南ベトナム人民を殺しつくし、すべてのものを奪いつくし、焼きつくす政策を実施

することである。つまり、虐殺であり、テロであり、暴行である。ところがいま、アメリカ侵略者はこともあろうに、南ベトナム人民武装部隊がクイニョンでかれらにいわゆるテロ手段をとったと非難している。これはまったく恥を知らないというものである。かれらは、十年らいアメリカ帝国主義とその南ベトナムかいらい一味が南ベトナム人民の二〇万人近くを殺害し、七〇万人あまりを負傷させ、五〇万人を監禁してきた深い血の恨みを、ベトナム人民が忘れてしまったとしても本気で考えているのだろうか。ほかでもなくアメリカの特殊戦争こそが、ベトナム南部の人民に現在のやり方でアメリカ侵略者にたちむかうよう教えたのである。中国のことわざでいえば、これが自業自得というものである。

アメリカのひきおこした南ベトナム侵略戦争は、すでにジュネーブ協定を完全にふみにじっている。ところがいままた、南ベトナムでたたかれたということを口実にベトナム民主共和国に戦争挑発をおこなっているが、これはジュネーブ協定をいつそう破壊するものである。

アメリカ政府は口先では、「衝突の拡大を避けるよう望んでいる」などといいながら、実際には、一步一步インドシナ戦争の拡大をはかっているのである。アメリカ政府は、そのほんのわずかの軍用機でベトナム民主共和国を襲撃すれば、ベトナム人民をしりごみさせることができると考えているが、それはまったく白昼の夢である。アメリカ侵略者が南ベトナムから撤退しないか

ぎり、ベトナム南部の人民は一日といえどもアメリカ侵略者に打撃をくわえることをやめないであらう。このような打撃はますます激しくなるばかりであつて、けつして弱まらないであらう。アメリカのベトナム民主共和国への戦争挑発は、絶対に懲罰をまぬがれることができないであらう。

アメリカ強盗の頭目ジョンソンが南ベトナムかいらいの軍用機を直接指揮して、二度もベトナム民主共和国を爆撃した以上、ベトナム民主共和国も南ベトナムかいらいに反撃する主動的な權利を獲得したのである。

アメリカ政府の注意をうながしておかなければならないのは、アメリカこそジュネーブ協定をふみにじつて南ベトナムに侵入したのであり、いままた、率先してベトナム南部とベトナム北部との境界線を突破したのだということである。きみたちは、自分たちだけがこのようにやることを許され、他の人がこのようにやることは許されない、と本気で考えているのだろうか。戦争の法則はきみたちの一方的な願いどおりに展開するものではない。きみたちは、自分たちの海空軍は強大であり、その力を振るいさえすれば、人びとはたちまち恐れをなしてきみたちに和を求めるだろうなどといっている。きみたちの望むところは、ほかでもなく、人びとがきみたちを恐れることである。しかし、侵略に反抗する人びとがきみたちを恐れず、勇敢にたたかい、困難をもの

ともせず、つぎからつぎへと立ちあがつて前進していくならば、きみたちはどうすることもできないのだ。朝鮮戦争で、きみたちはすでにこの教訓をあたえられているのに、インドシナでもういちどこの教訓を得ようというのか。

中国人民は、これまでアメリカ帝国主義に幻想をいだいたことはない。中国政府がすでに声明したとおり、アメリカのベトナム民主共和国にたいする侵犯は、すなわち中国にたいする侵犯であつて、中国人民はすでに準備をととのえており、しかも、どのようにベトナムとインドシナの人民を援助して、アメリカ侵略者をおい出すかを心得ている。

ここで、中国政府と中国人民は、アメリカ帝国主義に反対する全世界のすべての人民が団結し、社会主義陣営諸国のすべての人民が団結し、あらゆる可能な、適切で効果的な措置をこうじて、ベトナム人民とインドシナ人民の正義の闘争を支援し、アメリカ侵略者を徹底的に打ちやぶるよう呼びかける。

## 中華人民共和國政府の声明

(一九六五年三月四日)

三月二日、アメリカとその南ベトナムかいらいの空軍は、またもベトナム民主共和国にたいし、かつてない大規模な凶暴きわまる爆撃をおこなった。英雄的なベトナムの軍隊と人民は、侵入してきた敵機にまっこうから痛撃をくわえ、敵機一一機を撃墜し、多数を撃破した。三月三日、ベトナム民主共和国は声明を発表し、全世界にむけて、アメリカ帝国主義のこのきわめて重大な戦争行為を強く訴えた。中国政府と中国人民はベトナム民主共和国のこのおごそかな声明を全面的に支持するものである。中国政府と中国人民は、米ジョンソン政府の新たな戦争挑発をはげしく糾弾し、偉大なベトナム人民がアメリカ侵略者を反撃する戦闘でおさめた輝かしい勝利に心から歓呼の声をあげるものである。

ジョンソンをかしらとするアメリカ帝国主義者は、どんな悪事でもやつてのける一群の強盗である。ついこのあいだ、アメリカがベトナム民主共和国をつづけざまに三回爆撃したとき、ジ

ンソン政府はなおそれを「報復行動」であり、単独の「一撃」であるなどと、いつていた。ところが、こんどの爆撃で、ジョンソン政府は強盗の正体をいつそうはつきりとさらけだした。かれらは無法にも、これは一連の新たな空襲の第一回目であつて、その「目的は北部からたえず十七度線をこえておこなわれている侵略活動に反撃することである」と言明した。

こうしたむきだしの侵略行為をすすめるために、アメリカ政府はデタラメな口実をデッチあげた。二月二十七日、アメリカ國務省はいわゆる白書を發表し、南ベトナム人民の武装闘争はハノイが「指図、指揮、補給、支配している活動だ」と中傷しようとした。だが、事実をゆがめることはできない。全世界に知れわたっているとおり、アメリカは一九五四年のジュネーブ協定にそむき、ベトナムの平和的統一をさまたげて、血肉を分けた三千万ベトナム人民を長期にわたつて二分してきたのである。また、かいらい政権をむりやりベトナム人民におしつけ、南ベトナム人民にたいしてむごい搾取と圧迫をおこなってきたのである。さらに、アメリカと南ベトナムかいらい政権は、南ベトナム人民を弾圧し、虐殺して、南ベトナム人民の闘争と反抗をひきおこしてきたのである。かいらい政権ではやっていけなくなると、アメリカはみずからのりだし、武装部隊をくりだしてきた。このようなアメリカの武力介入と侵略こそが、南ベトナム人民のいつそう断固とした反撃と闘争をひきおこしたのである。ゴ・シンジエム兄弟は殺害され、グエン・カー



ンは追いだされた。南ベトナムのかいらいは走馬灯のようにつぎつぎと入れかわっている。アメリカの南ベトナムにおける反動的支配はかくも人心をえないものとなっているのである。だから、南ベトナム人民の武装闘争は、こうした反動的支配がひきおこした必然的な結果ではなくて、ハノイがまきおこした運動であるなどということを誰が信じようか。

いつわりで真理をおおいかくすことは永遠にできない。ことの真相は、アメリカの南ベトナム人民にたいする特殊戦争が、やればやるほど失敗し、アメリカ侵略者の死傷がますますひどくなっているということである。これまでのやり方で戦争をつづけるなら、破滅の前途があるだけである。といって、シッポをまいて帰るのも、がまんがならない。アメリカは南ベトナムで引っこみのつかない状態に陥った。そこで、ジョンソン政府は、南ベトナムでの敗勢をもりかえそうとして、戦争拡大でおどしつけて、南ベトナム人民に戦闘を停止させようと夢みている。だが、まさにベトナム民主共和国政府が三月三日の声明で指摘しているように、「アメリカ政府は、空軍をくりだしてベトナム民主共和国に強盗的襲撃をくわえれば、アメリカとその手先の軍隊がいま南ベトナムでおちいつている敗勢と窮地を打開できると思いきんでいる。これはまったく幻想にすぎない。アメリカ帝国主義が誰はばかることなく北部を侵犯すればするほど、南ベトナム人民はますますかれらを憎み、ますます断固としてかれらのしかけた戦争に反対し、かれらに猛烈